

ご存知ですか？『言語聴覚士』

言語聴覚士 坂本 麻衣

皆さん、「言語聴覚士」という言葉を聞いたことがありますか？これは、リハビリに携わる専門職の一つです。リハビリと言えば、理学療法士（PT）が皆さんにとっては一番馴染みの深い言葉だと思いますが、リハビリを必要とする人々の支援を行う専門職には、PTだけでなく作業療法士（OT）および言語聴覚士（ST）といったものがあるのです。さて、今回はその中でも言語聴覚士について、少しお話ししたいと思います。

まず、言語聴覚士とは言葉の通り言語及び聴覚の問題に対してリハビリを行う職種です。簡単にいうと、皆さんが日頃何気なく行う会話：これが急に出来なくなったりとしたら生活の中でどれだけ大きな支障をきたすでしょうか？万が一このようになった場合に、一日でも早く再び会話ができるように援助を行うのがこの職種の役目なのです。

ことばによるコミュニケーション

この問題は、脳出血、脳梗塞などの脳卒中後の失語症（言葉の働きを支配する部分が障害を受け、言葉を理解したり、自分の気持ちや考えを言葉で表現したりすることが難しくなること）や、聴覚障害、音声障害、ことばの発達の遅れ、運動障害性構音障害（正しく相手のことばを理解出来ているが、麻痺のために正しく音を作り出すことが難しくなること）など多岐に渡り、小児から高齢者まで幅広く現れます。言語聴覚士はこのような問題を明らかにし、対処法を見出すために検査・評価を行い、必要に応じて訓練、指導、助言、その他の援助を行っていきます。

言語聴覚士の仕事には、言語・聴覚以外にも『口から食べる・飲み込む』摂食・嚥下』ということも行っています。私たちは普段何気なく食べたり飲んだりしていますが『食べる』は私たちがもつとも関心をもっていることの一つだと思います。もし自分や家族が『食べる』ことが

出来なくなったらどう感じるでしょうか？きっと、『また口から食べたい、食べさせてあげたい』という気持ちになるでしょう。それを専門的に支援し、在宅でもできる安全な食事のとり方や姿勢、食事の介助方法などアドバイスしていきます。

最後に、ここまで話してきたことを簡単なチェック項目として記載しましたので、確認してみてください。でしょうか？あなたの家族や身近な人にこのような症状でお困りの方、お子さんがいらつしやいましたら、かかりつけ医にご相談下さい。

ことば

- 言いたいことばが出てこない
- 聞いたり読んだりしたことの意味がわからない
- ことばの発達が遅れている など

聞こえ

- 声やことばが聞こえない・聞こえにくい など

声や発音

- 発音の問題
- 声が出にくい、かすれる
- なめらかに話せない
- 吃音 など

食べること

- 食べ物や飲み物をうまく飲み込めない、むせる など

